

# めだかの学校だよりの

平成23年5月1日  
第72号

学舎：東久留女木新田観音山  
「みどりの郷キャンプ場」内  
事務局：静岡県磐田市  
家田 529-20  
TEL0539-62-6691

## 校長訓話

第七十二回 校長 加藤ひとみ

さて、どんな話しを書いてよいものやら。この年まで目の前の事をこなしながら何とか生きて来た私には、話す事が沢山あるような、たいした事がないような。でも、今年とても改めて実感した事があります。娘を産み育てて良かった、と心から思えた事です。「ママありがとう・すこく助かったよ・」という、素直でとても可愛い手紙を貰ったからです。

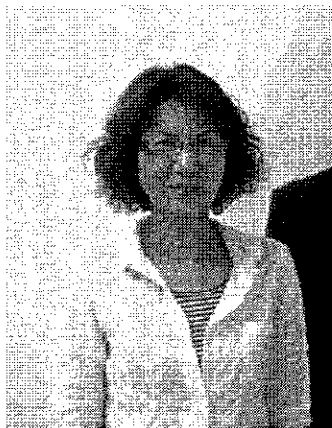
訳あり、娘は私一人で育てて来ました。母や弟、周りの方々の助けがあったおかげです。とても感謝しています。でも全く反抗期もなく育ってきた娘が、高校2年の頃からどんどん別人のようになっていき「どうして・」と訊ねると「分からないけど反抗したくなる」と。そしてついには高校3年の夏休み明けに夏休み中のアルバイト等が発覚し、みせしめのように退学を申し渡されました。でも部活動の先生の口添えで退学を免れ、自宅謹慎で済むことができました。あの時先生が守ってくれなかったら、卒業証書は貰えず、その後の専門学校にも行けず、現在の娘はなかったと思います。学校は何かあると、簡単に「退学」の言葉を出しますが、子供と親にとっても大変な事です。子供の将来に大きく

影響を与える事となります。部活動を頑張っていた娘の運だと思えます。先生「ありがとう」と言いました。それでも何とか高校を卒業し豊橋の美容学校に通い始めました。そして、ハラハラしどおしの一年半を過ぎた頃から急に頑張りだし、無事に美容師免許を取得しました。「ほっと安心！」したのも束の間、何故か小田原市の美容院に就職してしまいました。「可愛い子には旅をさせなさいいけない」と自分を納得させて、お互いの一人暮らしが始まりました。それからの娘の成長たるや、親バカですが「やれば出来るんじゃない！」の連続でした。高校3年の頃は、何を言っても全く聞く耳をもたず、荒れた親子関係だっただと思います。要求や責めて怒るばかりの私だったと思います。ただもう、「以前の娘に戻ってほしい」と思えばかりで、どうしたら良いのか全く分からなかったのです。今思えば、娘をただ信じてあげれば良かったのだと思います。そうすれば、今の私のシワとシラ方はもう少し減っていたかもしれません。

そんな頑張っている娘が、勤務先から自転車で帰宅途中バイクの当て逃げに遭い、ひどい脳しんとうの為の一時的な記憶喪失になってしまいました。私は急いで小田原に行き、病院と警察、美味しい手料理等、久しぶりの「母」をしてきました。幸い、病院でCTを3回もとりましたが脳に異

常ないとのことで、不幸中の幸いと大きく安堵しました。娘の手紙はその時の私への感謝の気持ちでした。事故直後、すぐ駆けつけて病院へ連れて行ってくれた職場の方々への感謝の気持ちもとても大きく書かれていました。

娘は本当に嬉しかったのだと思います。その後の東北の震災もあり、お互いに離れていてもいたわり合う心が自然と大きくなり、メールや電話が多くなりました。一人なれば、何でも一人でこなさなければいけないので遅くなるし、賢くなるものなのです。たまに帰って来て一緒に出かける時、いつも私の後ろについて何でも「ママにお任せ」の頃と違って変わり、その後ろ姿は頼もしくて、何だか安心するのです。娘の名前は「賀命子」と書き「かやこ」と読みます。まだまだ色々な事があると思いますが、乗り越えて行ってほしいと思います。



## めだかの学校伝言板

——第72回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／加藤ひとみ

教頭／村田徳治

用務員／熊谷純子

給食係／塚水雄一朗・大久保陽・鈴木祐之・野嶋一男

今村純子・加藤ひとみ・西川裕子・尾上美智子

水村春江・山中幸子・渡辺三ツ子(チーフ)

<学舎> 静岡県浜松市北区引佐町東久留女観音山

みどりの郷キャンプ場 TEL なし

開校日／平成23年6月3日(金) 6:20PMより

受付／星野直樹・森茂光・山下淳子・大場敬子  
齊藤昭(後見人)

<時間割> 今回のテーマ

「震災について考える」

●1時限 特別授業 ～18:40から～

—東日本大震災に重ねて—

自然科学「今、私たちに出来ることは」 松本芳廣先生

●給食は、じゃがいもの美味しい季節。

じゃがいも三昧?～

10:15 閉校



手打ちそばを食したらい」ということから『子オベーそば』を限定二十食で！大丈夫かなー

### ■『いなさ湖！菜の花プロジェクト』コスモスの種まきやろう！

6月11日(土)午前九時、いなさ湖親水公園集合だよ。浜松中心に西部地区に水を供給して都田ダムをみんなの手で育てよう。夏の湖畔での交流をしながら、秋に咲くコスモスをまきましよう。弁当などあると最高だね。

### ■開校日を前に学舎をキレイに！

5月29日の日曜日・午前九時から学舎の清掃をしましょう。この頃は、草木の成長が活発で、学舎周辺は草だらけです。人手がほしいです。草刈や枝打ち、調理場、学舎内、トイレをキレイにしましょう。清々しく開校するためみんなできりましよう。お弁当持参がいいかも！

### 『人・ひと・ヒト』だより

●仙台市の民族歌舞団ほうねん座代表の佐藤正信さんから「多くの地域で甚大な被害を受けましたが、ほうねん座では、けいこ場棟や事務棟など建造物への被害はありませんでしたが、座員、準座員も皆無事で、楽器や機材も被害を免れ、被災地の歌舞団として東北文化の灯を消さないよう全力で復興に向う決意をいたしました」とお礼のメッセージをいただきました。

●春は人事異動の季節―袋井市の松本芳廣メダカ。この3月で静岡県を定年退職。7月からは静岡市の静岡ガスへ。

●飯田市の玉置洋一メダカ。この3月で飯田市役所を定年退職。地元南信濃で地域のために頑張ると。

●磐田市の川島安一メダカ。磐田市連合自治会の福田地区支部長に。田村進治メダカは豊岡地区の支部長に。磐田市の南と北で地域のまとめ役に。

●浜松市浜北区の本間稔メダカは、自治会長解放だつて。めだかの学校に出易くなる。

●浜松市の水村春江メダカ。世界的なボランティア組織「ライオンズクラブ」の、県内はじめての女性だけの「浜松ひかりライオンズクラブ」初代会長をこの5月で退任。6月以降は少しは時間に余裕が。めだかにも出席するね、だつて。

●人事異動が終われば、5月は新茶の季節。浜松市引佐町の鈴木計芳メダカは大忙し。『渋川茶』で新聞にも掲載されて。島田市では池谷俊裕メダカと喜瀬川はつ枝メダカ。『初倉茶』も最高に美味しい。こだわりのお茶と言えは磐田市豊岡の鈴木正士メダカ。長年無農薬・化成肥料も使わず、一つひとつにこだわる。

●磐田市の伊藤英雄メダカ。お芋さんの苗の植え付けと草との格闘中。見るに見かねて石野省三メダカ助っ人に。仲間っていいねえ。

●浜松市雄踏町の藤田潤吉・久枝メダカ。いやあ相変わらずお賑やかです。5月9日付け静岡新聞朝刊『しずおか音楽の現場』欄に、シニア世代のチンドングループ花蝶ちん『笑顔で笑わす路上の芸能』と、一頁で掲載される。最近はいドル顔負けのモチモチですよ。(笑い)。

●磐田市の手描き工房「あやい」の濱田綾子メダカ。磐田市敷地の豊岡東公民館で6月4日から28日まで『蚊帳アート展』。濱田綾子メダカにはもう一つの顔が：篠笛と尺八。袋井市の大場敬子メダカ、浜松市の藤野利昭・はつえメダカ、浜松市の別所慶則元メダカも生徒。演奏会場があればお

弟子さんの演奏会したい。だつて。

●習志野市の市原実メダカ。県立山梨大の教授を退任して、今は全国の地域おこしに関わっている。東京都の菅原敬一メダカ発行人の地域づくり情報誌ヒューマンネットワークマガジン「かがり火」の編集委員。「かがり火」や地域活性化センター発行の「地域づくり」を見ていたら、榊原さんやめだかの学校が掲載されたものがあつたと、コピーを送ってくれた。なんと懐かしい顔がいっぱい。若かつたなア。

●森町の榊原淑友メダカ。4月2日3日と『森の蔵展』を。桜の開花の遅れや東日本の大震災もあつてか少し人通りが少なかった。しかし思いは「街並みの歴史講座」や高校生手づくりの郷土の偉人「村松藤三郎」の紙芝居など着々と定着。村松達雄メダカは天宮神社で舞いを奉納。服部守孝メダカと鈴木格子メダカは天浜線一宮駅の朝市で： がんばる森の人たち。榊原メダカは「一宮田舎くらぶ」もはじめたとか。

●磐田市の今村純子メダカ。小林佳弘メダカ、浜松市の上嶋裕志メダカからは、4月16日、17日に開かれた「見付宿の街道文化展」。今村・小林両メダカは地元のまとめ役。上嶋裕志メダカは、姫街道フォーラムの関わりで切り絵で参加。

### 「新入生紹介」

●新城市の星野直樹メダカ。環境・健康・食・農などの分野の研究開発を行っているベンチャー企業に勤務。家族4人。大事にしているのは、思いやり、やさしさ、そして笑顔だつて。

●袋井市の森茂光メダカ。不動産業で田舎暮らし物件が専門で、オンラインショップも。地方を車で出かける事、創造する事が好き、と。

●犬山市の塚永雄一朗メダカ。不動産業で

田舎暮らし物件とパソコン作業とか。昨年から犬山市の里山保護団体に参加。木工系のものづくりをしたい、と。

●磐田市の大場貞男メダカ。県立金谷高校の校長を最後に定年退職。現在は静岡産業大学の講師。スポーツ吹き矢の啓発に熱心に活躍中。公民館で田村進治メダカ、村田徳治メダカらと一緒に指導を受けたが、呼吸と姿勢・健康と精神統一にビツタリですヨ。どう、やらない？

●埼玉県の土屋朱帆さん(72回より入校)。音大音楽学科卒業。童話歌手として多くの賞を受賞。童話や日本歌曲の、自然で語りかけるような発音には、定評があり、多くのコンサートもやっている。東京成徳短大の講師として幼稚園教諭・保育士をめざす学生の指導も。9月には浜松でコンサートもやる。野嶋一男メダカは「浜松のお父さん」だつて。

●浜松市の今井正生メダカ。再入学。福岡から東京へ出る途中、浜松に寄つてそのまま20数年。佐鳴湖の水の汚さに一生をかける羽目に。その頃、佐鳴湖は全国「汚染」を目標に開発したのが無業剤、日本独自の水処理技術「AQUIN(アキユイン)」。佐鳴湖の水を使って野立てをやったり、子どもたちに飲んでもらったり...と。東日本大震災ではソーラーパネルと装置をつけたジープで現地へ。ここにもがんばる人が。

※まだまだたくさんの人を紹介したいが今回はこれまでに。

# トピックス

## ■「びっくり箱」 FLOWER COMMUNITY 若草」を開店してしまいました！

所沢市の木村智子メダカ。浜松市中区宮塚に、「ほっこりした時間」「ゆっくりながれる時間」「あたたかい仲間」「自分の居場所」：モコカフェと茶ツ葉屋と元園芸店の若草がコラボして「地域のお茶の間みたいな場所」をめざし、空間づくりをはじめました。

発端は35年間園芸店をしていた両親（故柴田芳明メダカ）が他界し、店舗兼住居が利用されなくなったこと。その後出会いがあって、みんなで話し合った結果、「地域のお茶の間」を目指そうと、沢山の人の助けを借りてお店を手作りし、オープンしました。表向きはただのカフェ、お茶屋、園芸用土のお店。とにかく訪れた方との会話を大切に。人恋しくなった時に一人でも来られる場所。そしてポロっとこぼした悩みがあれば、どこかにつないであげられる場所。また、近所のスーパが閉店してしまったので、買物難民を救い、地産地消とコミュニティの場もめざしている。「近所マーケット」も毎週金曜日に始まりました。実はまだ何が飛び出すかわかっていません。地域の人や浜松の多くの人とつながると、びっくり箱のように何かが飛び出すに違いないと考えています。私は始めに一週間くらい所沢市から浜松に通い、園芸相談に乗りながら人のネットワークづくりやびっくり箱の中身づくりをしていきます。一緒にびっくり箱を考えてくれる方を大募集しています。

TEL080/3125/2262 木村智子メダカ

## ■事務局だより

早いもので東日本地域を襲った大地震と大津波、それに原発事故も二カ月。3月11日のその時間、勤務先の公民館に訪ねて来た野嶋一男メダカと話をしていた。「あれ、目まいがする。また病気が出て来たかなア」「私も目まいする。気持ち悪いなア」と野嶋メダカ。ロビーをみると、ロビーに飾られた吊し鐘が揺れている。「地震だ!!」。それにしてもいつもと違う。別の部屋で高齢者の人たちが集まっている。数人の人が気がついただけで、あとの人は「気がつかなかった」と言うので、安心して部屋に戻る。野嶋メダカが帰られたあとテレビをつけると様子が一変。背筋を戦慄が走る。そして二カ月経った今も、「私はなにを」なのである。

さて、第71回のめだかの学校は3月4日、校長杉谷知也、教頭田中みき子、用務員徳増兼弘。この頃はタイガーマスクの伊達直人ヒーロー。「日本人もまんざらでもないね」とテーマも「ちよっといい話」に。一時間目保健体育本島真弓先生「ちよっと聞いていい話」。花粉がひどくていいながら、知的障害者施設で赤シャツ君に出会ったこと、特別養護老人ホームでの人との出会いを語る。二時間目音楽中村明男先生「たのしい音戯ばなし」。フォークソングの世界をビデオを使って年代別に解説。中津川市でのフォーク大会。吉田拓郎がロック調に演奏し、人を魅きつけ盛りあげたこと。三時間目社会藤野はつえ先生「そばから生まれたいい話」。私のお店にはいろいろなお客さんが来るが、ヨットを持つっている人、外車をいっぱい持っている人、九重に住んでいる人、3人のお金持ちがくる。お金持ちはやっぱり違うね。と笑わせる。まさに三様。杉谷知也校長の訓話。丸っこい人なつこい身体から発する言葉は、第71回の校長訓話の内容。文字で見

るより、人を大切にしている校長の人となりが伝わって来る。事務局からは、いつも学舎周辺の草刈りや、学舎の清掃をしてくれた人への感謝の気持ちを共有しようと、給食当番と同じように毎回名前を公表。お待ち兼ねの給食は「ひなご膳?」。いつも給食当番のみなさんの味がしみこんで美味いね。満腹!。ほんとは何を食べたか思い出せないうい。私語飲食全て禁止の次回3役発表。第72回校長加藤ひとみ。「エーツ、なんでえ」。なんでもいいの。教頭村田徳治。用務員熊谷純子。「なんだかそんな気がした」だって。開校以来はじめての女性用務員です。閉校後、真っ暗闇の中、村松孝司メダカが星空の説明をしてくれました。夜の星空に思いを残しながら帰路へ。

第72回のめだかの学校の職員会議を4月14日(木)磐田市のとれたて元気村「味里」で開く。加藤ひとみ校長、村田徳治教頭、用務員熊谷純子の3役も出席して開く。今回の話題は、否応なしに3月11日東日本を襲った大震災のこと。「あれだけの地震と津波では人ごとではないね」「それに福島原発」「テレビや新聞の報道もひどいね」「政治家なにしてるの、ひどいね」などなど、原子炉の構造から始まって浜岡原発のことまで。今回のテーマはシンプルに「震災について考える」。授業は一時限60分にして、静岡県の防災にも関わりがあった松本芳廣メダカに決まる。自然科学「今私たちにできることは」。(松本先生、5月12日から19日まで、寝袋持参でポラントイアとして岩手県に行く。生々しい現状が聞かれますヨ)。

■あのー「めんない。お詫びと礼を...」  
今回も大幅遅れ。常態化してしまいました。伊藤英雄さん、石野省三さん、本島慎

一郎さん、鈴木武史さんありがとうございます。最後の詰めは間瀬亮太さん、よろしくね。みなさん感謝してまいります。明美さんありがとうございます!。

## ■第19期の受け付けも始めます

第18期は22年9月1日から23年8月31日までです。開校日は6月3日を以って終わります。第19期は、23年9月1日から24年8月31日までです。6月3日の開校日から受付を始めます。継続希望の生徒は、同封の申込書に記入し、1,000円を添えて提出してください。出席できない生徒は、8月31日までに郵送か持参してください。随時申込みを受け付けていますが、継続手続きしない生徒は、名簿からはずされ自主退学となります。入学を希望する生徒がいましたらご連絡ください。資料と申込書を送ります。

## ■めだかの学校だよりの原稿を!

今回の発行日は平成23年8月1日、原稿の締切りは7月20日です。あなたの活動予定やイベント、活動実践など送ってください。郵便かFAXで。メールの方は、

《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》

間瀬亮太090・5009・0986です。  
(メールの方は割付の関係もあるので一報を)。

## ■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田52  
9番地20 榊原幸雄方 TEL053  
9・62・6691 (FAX同じ)  
※学舎「みどりの郷」には電話はありません。連絡は事務局まで。携帯080・16  
12・9130

